



第16回 城北地区 ふれ愛まつり

城北

平成27年11月1日現在	
総世帯数	3,518
総人口	7,680
男	3,658
女	4,022



10月15日城北社会福祉協議会主催のふれ愛会食会が福祉ひろばで行われました。75歳以上の高齢者が対象で、16回目の今年は44人が参加しました。岩淵会長が「社協の関係役員みんなががんばって準備をしました。充分楽しんでいただく下さい」と挨拶した後、お弁当と豚汁、漬け物、デザートが配られると賑やかに会食が始まりました。

食事の後は5人組のバンド「花とクローバー」の歌と演奏を楽しみました。ボーカルの花村さんは心に響くすてきな歌声で参加者を魅了し、昔懐かしい歌を一緒に歌いながら、感激して涙ぐむ人もいました。参加者から「食事も美味しく、楽しかった！これでまた長生きできそうです」と話していました。

ふれ愛会食会

和田嶺合戦 松本藩と 水戸浪士の戦い

10月の文化部講座は、後藤芳孝さん(田町町会)を講師に東山の向こうで起こった、太平の夢を破る幕末の大事件の跡をたどりました。

●事前学習(14日)

机上講習は、まず深澤公民館長が制作した「和田嶺合戦」のビデオが上映され、水戸浪士の天狗旗揚げから哀れな末路までを、研究者からの聞き取りや貴重な映像で知ることができました。

●現地訪問(20日)
(下 諏訪宿)

つづいて後藤講師が元治元年(1864)年11月武田耕雲齋率いる水戸浪士1000人が信州を通過した経緯や、迎え撃つ松本藩の慌しい出陣の動きと戦闘の様子とを詳細な資料をもとに具体的に解説されました。

はじめに訪れた下諏訪歴史民俗資料館は秋宮の近く、旧街道沿いの商家を復元した建物です。

東海道と並ぶ天下の大道道 中山道下諏訪宿は甲州街道への分岐点として重要な宿場町でしたから、残された文物は



貴重な物ばかりでした。幕末の動乱期、この宿場町が巻き込まれた三大事件(和田嶺合戦・皇女和宮降嫁・赤報隊)では、本陣をはじめ町衆が大きな負担を強いられたようです。また宿場を支える人達の中にいた、年端もゆかぬ下働きや飯盛り女などの年季奉公証文には胸をうたれるものがありました。

●合戦の跡と戦士の墓

桶橋の戦跡は、春宮の御柱木落し坂の北にあつて谷が狭まり、松本・諏訪高島両藩の1500人が並んで浪士軍を迎え撃つ絶好の地でした。下仁田で高崎藩を撃破し、内山峠から佐久平を通過した浪士軍は11月19日、和田宿に到着しました。翌20日午後3時過ぎ、和田峠を越えた浪士軍は、対峙した両藩の左側方

山上から激しく鉄砲を撃ちかけ、戦いが始まりました。道中歴戦の浪士軍は一部を高島藩の後ろに廻り込ませ山上から発砲、黒煙濛々の激戦となりましたが夕闇迫る頃、浪士軍隊長武田耕雲齋の采配で総攻撃が始まると高島・松本両藩は総崩れとなって敗走しました。この戦いで松本藩に5人、浪士軍に13人の戦死者がでました。

合戦の跡をたどる前、水月園内にある松本藩の戦死者の墓と街道沿いの水戸浪士の墓の前へは、後藤講師が心尽くしの菊の花を供え痛ましい戦士達に手を合わせました。

(和田峠から和田宿へ)

松本藩がはじめに陣を張った東餅屋跡を見た後、長和町の和田宿に入りました。ここでは整備された資料を保存している国指定遺跡の「本陣」建屋と、歴史の道資料館として復元された大きな旅籠「かわちや」を見学しました。

文久元(1861)年、4万人もの供揃い「和宮の江戸下向」は大難事でした。この年の3月、大火で本陣を含む100余軒が焼失した和田宿でしたが、緊急の再建工事を先行い11月には何とか使役を全う、たび重なる災難を乗り越えました。

山内には生まれ、明治22年に長野師範学校を卒業後、県内各地の学校に勤め、昭和6年に退職しましたが、この間に新田町に移り住みました。

高山植物に惹かれた河野は精神的に高山植物の研究をすすめ、飛騨・赤石・木曾山脈などに登山して多くの新種を発見しました。また、花の散った植物を自宅に持ち帰り栽培し、植物学の権威牧野富太郎博士にタカネマンテマと命名して貰った事もあります。

河野は、昭和7年に信濃教育会からの依頼で、寒冷地の植物と県内の高山植物との比較のため樺太(現ロシア領)や北海道の利尻島などの調査をし、新変種のリシリオダマキを発見しています。

また、岩や石を積み重ねて造る高山植物のロックガーデンを日本で初めて自宅や市内・県外各地に造っており、松本県ヶ丘高校には今も残っています。

記念展では、河野が愛用したジャバラ写真機のほか新発見した植物標本や書簡などが展示されており、博物館では「高山植物研究一筋の河野の業績を多くの人に知ってもらいたい」と話しています。

この記念展は、両館で12月13日まで開かれています。



帰りは、敗残の松本藩士達がたどった扉峠を越え、入山辺の道を下りました。曲がりくねった標高差1000mの急坂では、往時の人々の健脚ぶりを痛感した一日でもありました。

高山植物研究 一筋の

河野齢歳展

高山植物の権威として知られている河野齢歳の生誕100周年を記念した展示会が、松本城内の松本市立博物館とアルプス公園の山と自然博物館で開かれています。

河野齢歳は、現在の松本市

高山植物の権威として知られている河野齢歳の生誕100周年を記念した展示会が、松本城内の松本市立博物館とアルプス公園の山と自然博物館で開かれています。

河野齢歳は、現在の松本市